“こころ”のふるさとづくり

「”こころ”のふるさとづくり」の創設

キャプテン中原

【都市在住のAさん】

・緊急時に郊外に身寄りのない不安

・旅行先の選定

・子ども達に田舎体験をさせたい。

【加入】

【会費】

①月々3,000円支払い

（大人1,000円、子ども500円）

②ふるさと納税の実施

“こころ”のふるさとづくりサークル

【受けることができるサービス】

Ⅰ.「ふるさとギフト」の受け取り

年6回、Bさん達が作った野菜、果樹などを受け取ることができます。

Ⅱ.非常時の「移住保険」

大震災などで避難を余儀なくされる場合、移住できます。7日間の宿泊が無料です。

Ⅲ.「ふるさと探訪」と「子どもの田舎体験」

・年1回、格安で来熊し、田舎体験ができます。

・宿泊は農村集落の整備済みの空き家

・2泊3日の宿泊費が無料

思ったより安く旅行ができ、家族との絆が深まりました

また行きたい！

絆

【行うサービス】

Ⅰ.「ふるさとギフト」の送付

年6回、自分達で作った野菜や果物などをAさん達へ送付

Ⅱ.空き家の管理

Aさん達が宿泊する空き家のメンテナンスを実施する。（空きや改修は市町村が実施）

Ⅲ.おもてなし

Aさん達が、「移住保険」や「ふるさと探訪」で訪れたときのおもてなし。「田舎体験プログラム」の提供

毎月の収入がちょっぴり増えて、都会の孫にプレゼントを買ってあげる余裕ができました

“こころ”のふるさとづくり団体

【農村在住のBさん】

・収入面であと少し余裕がほしい

・集落の衰退への懸念

・人恋しさ～来る不安

【立ち上げ】

①アドバイザーの協力の下、“こころ”のふるさとづくり団体の設立

②1団体につき、10戸程度の農家で構成し、都会からの100ファミリーをおもてなし。

③農家一戸あたり、3万円の収入が得られる。

【県が実施すること】

・「”こころ”のふるさとづくりサークル」のPR

・「こころのふるさとづくり団体」を設立するためのアドバイザーの派遣

・市町村への助成と連携

【市町村が実施すること】

・空き家所有者との交渉、提供の依頼

・空き家の整備（都市住民が抵抗なく住める程度に）

・県からのアドバイザーと連携し、地域住民との合意の形成

県と市町村で協力し、制度を支える

《提案のきっかけ》

2011年3月に発生した東日本大震災の影響で、東北、関東方面から、九州に多くの方が避難されました。少数ですが、九州と何のゆかりもないのに、思い切って移られた方もいます。このことを知って私は「本当は、九州に避難したいけど、つてがなくてあきらめた」という方も多いのではないかと思いました。

一方、私は天草出身ですが、地元に目を向けると空き家が増え、住民の高齢化も進んでいます。

そこで、「都市部と農村集落」、それぞれの立場で抱える不安を解消する行政の取り組みを考えました。行政も財政が厳しいので、できるだけ予算を抑制した提案にしています。

○提言してみて

・地方財政が厳しい中で、都市側のニーズと農村側のニーズをマッチングすることで、行政の財政負担を減らした公共政策を提案してみました。

・この政策が実際にワークするかどうかは、詳細に都市住民のニーズをマーケティングリサーチする必要がありますが、十分、実現可能性はあると思います。

・この提案以外にも、熊本県の持つ魅力を求める潜在的ニーズを丁寧に拾い上げることで、コストパフォーマンスの高い施策ができると考えています。

・今回、我々に提案の場を作っていただいた熊本大学政策創造研究教育センターの関係者の方々には厚くお礼申し上げます。